

弘前城築城400年祭の題字揮毫について

揮毫者紹介 書家 ^{きくち} 菊池 ^{きんこ} 錦子 弘前市出身・在住

2008年大河ドラマ「篤姫」の題字を手がけたほか、多方面にわたって筆文字のロゴを揮毫し、活躍中。 書道教室朋游主宰

作者の言葉より

今回は思いがけず、『弘前城築城400年祭』を揮毫する機会を賜りまして、とても有り難いことと存じ、貴重な体験をさせていただきましたことに深謝致しております。

『弘前城築城400年祭』を揮毫するにあたり、いつもとは別の心持ちで公園内を散策してみました。

本丸からのお岩木山は、ことに美しく気品があり、心奪われる見事なお姿でございました。

この同じ場所で、代々の藩主がお岩木山を拝礼していたことを想像すると、この場に立っていることがとてもおこがましく思えました。

そのように思いながらも少し佇んでいると、石を運び、積み重ねる労働者達の姿、それを指揮する者、その家族の姿、それぞれの思い、飛び交う掛け声、汗のにおい…

それぞれが一つの目的に向かって、それぞれの役割を果たし、築きあげられた城…さまざまな想像が脳裏をかすめ、あついものがこみあげてきました。

筆を運ぶ際は、ご要望であった荘厳なイメージを念頭に、歴史の重みとこのように感じた思いを抱きつつ、その思いを内包した線に、所々、少々スピード感を加えることで、活気ある士気（城を築く際の意気込みと400年祭を盛り上げる意気込み）をも表現出来ればと思い、揮毫させていただきました。

また全体像は、お岩木山のお姿と天守のような形、そして中央に向かって伸びてゆく市民の高い志と、末広がりにより永久に発展してゆく弘前の姿を重ね合わせたものになっております。

2009年7月27日

菊池 錦子